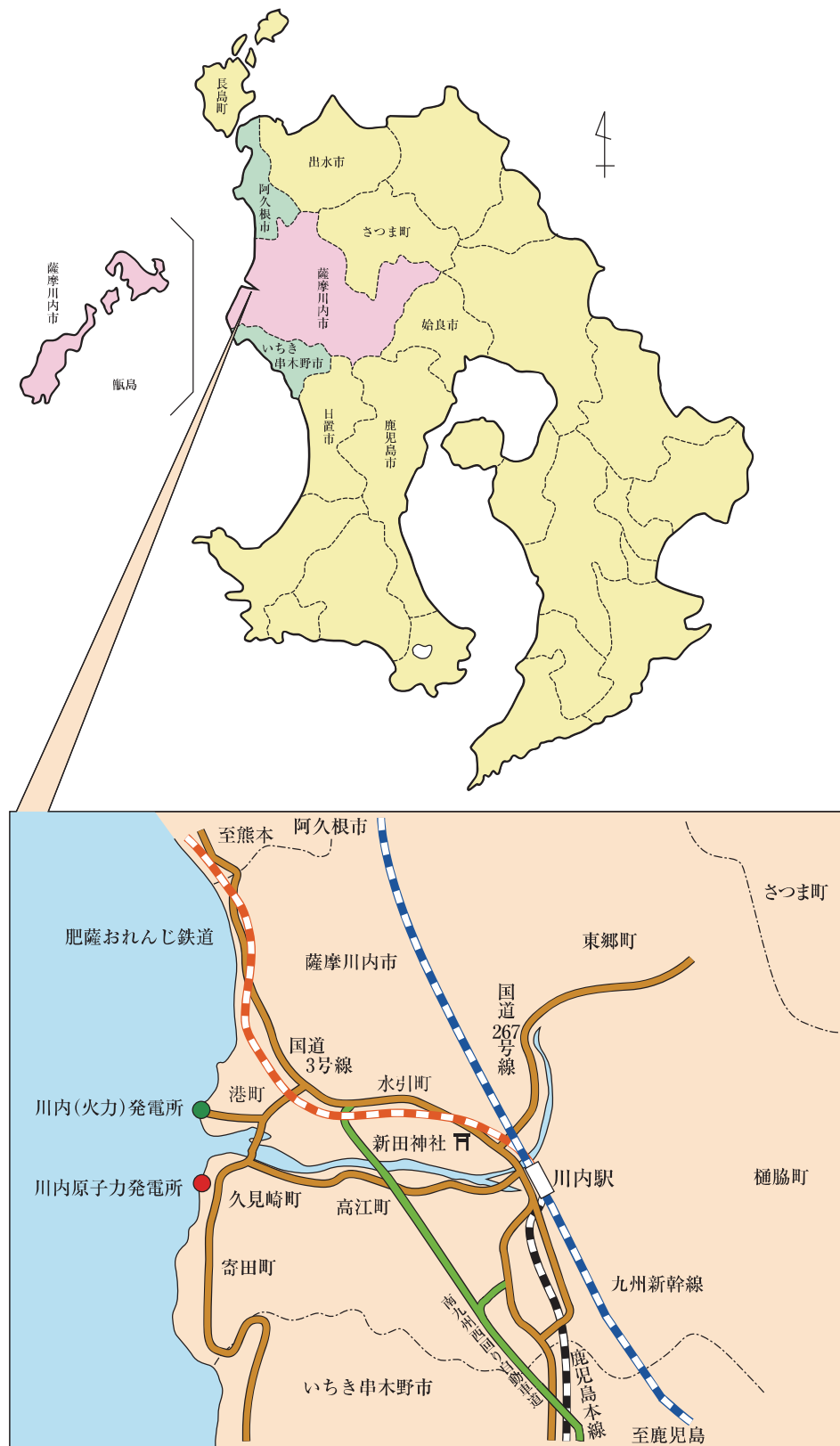


Ⅲ 参 考 資 料

Ⅲ－１ 川内原子力発電所位置図



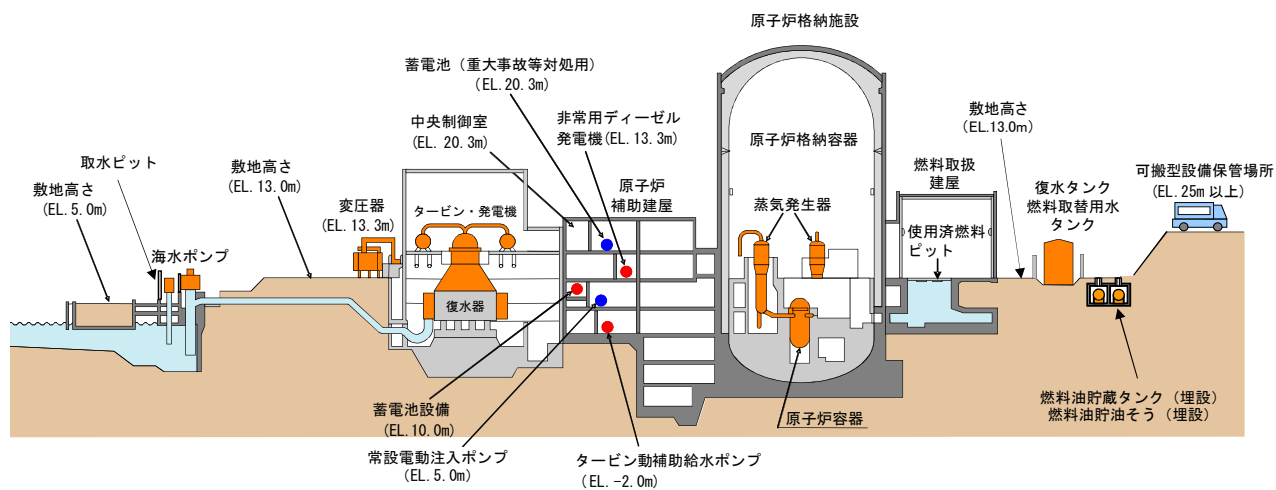
< 発電所全体配置図 >



※県道43号線は敷地外

< 発電所断面図 >

【イメージ】



Ⅲ－２ 川内原子力発電所の概要

川内原子力発電所は、1号機が昭和59年に全国で27番目、2号機が昭和60年に全国で32番目の商業用原子炉として営業運転を開始している。

項 目 \ ユニット		1 号 機	2 号 機
所 在 地		薩摩川内市久見崎町字片平山1765番地3	
敷 地 面 積		約145万m ² （埋立面積約10万m ² を含む）	
電 気 出 力		89万kW	89万kW
原 子 炉	型 式	加圧水型軽水炉（PWR）	
	熱 出 力	266万kW	266万kW
燃 料	種 別	低濃縮（約4.1%，約4.8%）二酸化ウラン	
	装 荷 量	約74トン （燃料集合体157体）	約74トン （燃料集合体157体）
冷却海水量		約64m ³ /s	約64m ³ /s
主 要 経 緯	川内市議会・誘致決議	昭和39年12月15日	—
	建 設 計 画 発 表	昭和45年 4月21日	昭和52年 3月29日
	電源開発調整審議会	昭和51年 3月12日 （第68回）	昭和53年 7月14日 （第75回）
	原 子 炉 設 置 許 可	昭和52年12月17日	昭和55年12月22日
	着工（基礎掘削開始）	昭和54年 1月24日	昭和56年 5月 7日
	安 全 協 定 調 印	昭和57年 6月12日	
	初 臨 界	昭和58年 8月25日	昭和60年 3月18日
	初 送 電	昭和58年 9月16日	昭和60年 4月 5日
	営 業 運 転 開 始	昭和59年 7月 4日	昭和60年11月28日
建 設 費		約2,800億円	約2,300億円

Ⅲ－３ 原子力防災訓練当日のコメント(ぶらさがり取材)

１ 知事

今回の訓練は、コロナ禍で少し縮小した形になりましたが、関係の皆さんの情報伝達の仕方、あるいは資機材の使い方の習熟等いろいろな面で、実施して良かった部分があったと思います。

避難所や安定ヨウ素剤配布、車両の除染や検査を実際にその場で行うことで、どのような段取りで会場を設営してといったことを実体験することができ、参加された方の訓練として非常に意義があることだったのではないかと思います。

いろいろな災害のときに、どのように状況把握するのか、どういう段取りで物事を進めなければならないのか、あらかじめ関係機関との情報伝達や住民への周知の在り方、関係の実動部隊との連携や動き方をシミュレーションしておくことは、いざというときに慌てないという意味で、非常に大事なことだと思います。

コロナの影響については、避難の段階、バスで移動するときの対策、あるいは避難所の中での対策などいろいろな段階で、しっかり対策を行う必要があると思っています。また、原子力災害の場合には、外部の放射線の遮断とコロナ対策での換気という課題があります。切羽詰まった状況の中で、どちらをどういうふうに優先するのか、あらかじめ、関係者の間で共有しながらやっていくこと、理解を深めておくということが大事だと思います。

訓練については、繰り返しやることで習熟していく面もありますので、どういう想定シナリオでやっていくかということについては、引き続き検討をしていきたいと思っています。

鹿児島県危機管理防災局
原子力安全対策課

〒890-8577

鹿児島市鴨池新町10番 1 号

Tel : 099-286-2543

Fax : 099-286-5925